
ライス2000～2000の限界に挑む

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ライス2000～2000の限界に挑む

【著者】

N1622N

【作者名】 いはんライス

【あらすじ】

2000年設定にしたけど、2000年じゃありませんでした。

榎木松茸は、会社で課長に叱られていた。「君は何年やつてるんだね!」「30年です。課長は?」「むつ。15年だ」「じゃあまだ若造じやん。生意気言つんじやねえよ」「チキシヨー! 老いぼれめ!」

松茸は、席に戻つてパソコンのキーボードを叩き始めた。仕事ではない。小説を書いてる。社内報に連載してる小説だから、許されているのだ。

「正社員をぶつ殺せ!」といつ題名である。この連載はなかなか好評だ。アルバイトは貧困に苦しんでるから読むとスッキリするし、正社員は自分たちばかりいい暮らしをしてることが苦しいから、小説の中で殺されたり酷い目にあわされるとなぜか安心する。今回は、正社員金田啓一の家が、アルバイト集団に燃やされるといつ内容だ。金田啓一のモデルは、スペイシー課の金山啓一だ。

しかし、社内報が出された一週間後、悪いことが起きた。金山啓一の家が本当に燃えてしまつたのである。無論、アルバイト集団のせいではない。啓一がタバコをしながら寝てしまつたのがいけなかつた。しかし、松茸は社長に呼び出された。「君があんなことを書いたからいけないんだよ。言葉には不思議な力があるんだ。だから気をつけて書かないとね」「ごめんなさい……」啓一の妻、時子はその当時温泉旅行に行つていたので無事だった。

時子はかんかんに怒つて、松茸のアパートを燃やした。9人が死亡した。松茸はたまたま銭湯に行つていたので助かつた。しかし、松茸は完全にキレた。時子が許せなかつた。だから、啓一の妻、時江がアルバイト集団に拉致され殺害されるという設定で小説を書き始めた。

すると、何ということだ。社内報が出された一日後に、時子が何者かに殺害された。自宅で遺体が発見されたとき、手足を縛られ、

口にガムテープを貼られていた。これは、松茸が小説で書いた手口と全く同じ。松茸は、容疑者として警察に連れて行かれた。無論、松茸は真犯人ではない。たまたま重なつてしまつただけだ。五時間ほど警察に説明してやつと釈放された。松茸は小説を書くのがいやになつてしまつた。そんなわけで、連載はしばらく休止となつた。

しかし、松茸の連載を楽しみにしていたたくさんの社員やアルバイトはキレた。連載を開始しないと仕事をしないとストライキをお越し、会社は半分くらい機能停止してしまつた。社長は事態を重く見て、松茸のアパートに出向いた。「松づちゃん。書いてくれよ。お願ひだよ」「松阪牛のサーロインステーキご馳走してくれますか」「するよ。するとモ。一枚でも三枚でも」「よろしい。書きましょう」

松茸はまたバリバリ小説を書き始めて、従業員は面白い松茸の小説を読んで元気になつて会社はまた復活した。

しかし、松茸は疑問に思つた。小説で自分をモデルにしたキャラクターが死んだら一体どうなるんだろうと。松茸は悩んだ末、作家魂に火がつき、松茸がモデルの榎木椎茸をトラックにはねさせて殺した。

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1622z/>

ライス2000～2000の限界に挑む

2011年12月5日21時57分発行